



# 新年のご挨拶

島根県神社庁長

角河 和幸



皇紀二六八五年・令和七年乙巳歳の新春を言  
祝ぎ、先ず以て  
皇室のご安泰と

国家の繁栄、世界の恒久平和をお祈り  
申し上げます。そして県内神社のご隆昌  
と氏子崇敬者の皆様方の益々のご健勝  
とご多幸を祈念申し上げます。

畏くも天皇陛下におかせられまして  
はご機嫌麗しく日々ご精励遊ばされて  
おられますこと誠に慶賀の至りに存じ  
ます。昨年の能登半島地震で甚大な被  
害を受けられた被災地へのご訪問にお  
いては多くの被災者に寄り添ってお声  
をかけられ、また被災地で尽力されて  
いる方々へ労いのお言葉をかけてい

らっしゃる姿にも感銘を受けた次第で  
あります。我々国民は陛下のお姿に倣  
い、心一つに日本の再建に尽力しなけ  
ればなりません。

さて本宗と仰ぐ神宮におかれまして  
は昨年四月天皇陛下より御聴許を賜り、  
第六十三回の神宮式年遷宮が始まりま  
した。令和十五年秋の式年遷宮に向け  
て準備が着々と進められております。  
前例により本年は山口祭・木本祭・御  
杣始祭・御樋代木奉曳式・御船代祭が  
執り行われる予定です。皇室の祖先神  
にして国民の総氏神である神宮の御事  
には我々心一つにして遷宮に携わり、  
神宮大麻頒布と共になお一層の神宮崇  
敬の念の醸成に尽力する次第でありま  
す。

本県におきましては六月の協議員会  
において新年度事業が承認され、県内  
神社の護持運営のための施策を鋭意取  
り進めております。その中において、  
十一月には神社庁例祭に併せ、斯界の  
貢献者に対しそれぞれに神宮表彰、神

社本庁表彰、神社庁表彰の伝達式を執  
り行いました。受賞者の皆様への敬意  
を表しますとともに、今後一層のご活  
躍と奉務神社のご発展をお祈り致し  
ます。

県内の状況は過疎化や少子高齢化等  
の課題があり、神社の運営はなお厳し  
いものと把握しております。長いコロ  
ナ禍によって様々な事が自粛されてき  
ました。生活環境は徐々に元に戻りつ  
つありますが、神社の祭事行事は元の  
形に戻すことができなない状況下では  
あります。このような厳しい状況下では  
ありますが、神職と総代が力を合わせ  
て、氏神様の護持に尽力いただきました  
と存じます。神社庁と致しましても、  
総代会を始め、関係団体と連携し、様々  
な施策を講じてまいります。  
結びにあたり、迎えました新しき年  
が我が国を始め、四海万邦に争いのな  
い豊かで平和な良き年となることを切  
に祈り、年頭のご挨拶とさせていただきます。

鳥根県神社総代会長

## 木佐明宏



令和七年の新春を迎え、聖寿の万歳と竹の園生の弥栄をお祝い申し上げますとともに、氏子崇敬者の皆様方に謹んで初春のお慶びを申し上げます。

平素より、氏神様、崇敬神社の護持運営はもとより、鳥根県神社庁並びに神社総代会の事業推進に格別のご理解、ご協力を賜っていますことに厚くお礼申し上げます。

畏くも天皇皇后両陛下におかせられましたは、日々すこやかに、祭祀・公務にお励み遊ばされておられますこと、誠に有り難く慶賀に堪えない次第でございます。両陛下のご健勝をお祈り申し上げます。幾久しく皇室の尊厳護持に努めてゆく所存です。

神社本庁が本宗と仰ぎます日本の総

氏神様、伊勢の神宮におかれましては、第六十三回神宮式年遷宮が決まり、本年より遷宮諸祭、諸行事が順次執り行われる運びとなります。我々神社役員・総代は、この国家的大事業に向けて、思いも新たに結束し、御遷宮の啓発活動に協力するとともに、神宮大麻頒布活動に一層力を尽くし、神宮大麻奉斎の意義と神宮の崇敬の念の醸成に努めてまいりたく存じます。

さて、昨年は大規模災害が多発する年になりました。県内でも、七月県東部を中心に襲った豪雨により、日御碕地区は主要道路の一部の陥没により、一時孤立状態になり、生活に大きな影響ができました。被災地域の方々にご心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く復旧復興されます事を祈念致します。

我が国は今年「終戦八十年」の節目の年を迎えます。戦後、日本は占領軍によって様々な改革統制をされ、日本の国体が失われているように思います。

これは、当時の事ではなく今でもその影響を受けています。日本古来の民族宗教の力を弱められた結果、私たちの心は一つにまとまりにくくなった様に思います。半世紀前まであった家族の絆や団体意識は薄れ、個人主義が先行する現代は、自己主張が強すぎ、身勝手な振る舞いが目に余るようですが、敬神生活の綱領にあります「神の恵みと祖先の恩とに感謝し」「世のため人のために奉仕し」「国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること」今、これを忘れてはなりません。そして、日々努めて行くことで真の幸せがあるものと信じております。

結びに、今年こそ平和が回復し稔り多き一年であることを祈るとともに、県内各神社のご隆昌と皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

月	日	曜	主催	行事	場所
6	19	木	島根県神社庁	身分選考委員会	神社庁役員室
	25	水	〃	支部長会	神社庁小会議室
	25	水	神政連県本部	代議員会	神社庁第二研修室
	26	木	島根県神社庁	協議員会	神社庁大会議室
	29	日	日本文化興隆財団	全国神社検定	神社庁研修室
	未定	神社本庁	事務担当者会	神社本庁	
7	4(金)～5(土)		全国氏青協	全国氏子青年協議会定期大会	沖繩県
	9	水	県神社総代会	総代会監査会	神社庁役員室
	9	水	〃	代議員会	神社庁大会議室
	9	水	日本会議島根	理事会	〃
	29	火	島根県神社庁	国民精神昂揚研修会(教化委員総集会)	〃
	未定	島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室	
8	7(木)～9(水)		〃	階位検定講習会	神社庁研修室
	25	月	〃	監査会	神社庁役員室
	25	月	〃	役員会	〃
	28	木	広島県神社庁	広島県神社関係者大会	広島市
9	4(木)～5(金)		中国地区神社庁	中国地区教化会議	島根県
	10	水	神宮	評議員会	神宮会館
	11	木	〃	神宮大麻曆頒布始祭	内宮神楽殿
	12	金	神社本庁	神社庁長会	神宮司庁
	18	木	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	19	金	〃	神宮大麻曆頒布始奉告祭 (祭員・奏楽→出雲地区)	神社庁神殿
	19	金	〃	支部長会	神社庁小会議室
	19	金	〃	総務委員会(本庁・県規程表彰審査)	神社庁役員室
	27	土	全国敬神婦人会	全国敬神婦人大会	青森県
		未定	〃	全国神社総代会大会	未定
		未定	神社本庁	神宮大麻頒布曆秋季推進会議	神宮会館
		未定	〃	神宮崇敬会事務局長会	〃
		未定	〃	「皇室」普及委員会	神宮司庁
	未定	中国地区神社庁	中国地区中堅神職研修(甲)	鳥取県	
	未定	県氏青協	島根県氏子青年協議会定期大会		
10	15	水	神宮	神宮初穂曳	神宮
	17	金	大社國學館	大社國學館大祭	大社國學館
		未定	神社本庁	評議員会	神社本庁
		未定	島根県神社庁	神宮大麻發送	各支部へ
		未定	島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室
11	6(木)～7(金)		中国地区神社庁	中国地区職員研修	広島県
	11	火	島根県神社庁	祭祀委員会	神社庁小会議室
	12	水	〃	例祭・新嘗祭 (祭員→庁長・祭祀委員・神青・女子神、 奏楽→石見地区)	神社庁神殿
	12	水	〃	表彰式	神社庁神殿
	18	火	〃	総務委員会	神社庁役員室
	18	火	〃	教化委員会	神社庁小会議室
		未定	山口県神社庁	山口県神社関係者大会	山口市
	未定	神社本庁	全国教化会議	神社本庁	
12	8	月	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	9	火	〃	役員会	〃
	9	火	〃	身分選考委員会	〃
	9	火	〃	研修所企画会議	〃
	26	金	〃	御用納祭	神社庁神殿
		未定	〃	広報委員会	神社庁小会議室
	未定	県敬神婦人会	総会	未定	

## 令和7年 島根県神社庁 年間行事予定表

月	日	曜	主催	行事	場所
1	6	月	島根県神社庁	御用始祭	神社庁神殿
	23	木	〃	正副庁長会	神社庁役員室
	23	木	〃	役員会	〃
	23	木	〃	神社庁新年互礼会	武志山荘
	24	金	〃	新年祭 (祭員・奏楽→石見地区)	神社庁神殿
	24	金	神社庁研修所	研修所講師会議	神社庁小会議室
	25	土	〃	支部祭式助教研修会	神社庁祭式教室
2	8(土)~9(日)		〃	初任神職研修(前期)	神社庁研修室
	11	火	日本会議島根	建国記念の日奉祝行事	未定
	16	日	県神青協	竹島領土平安祈願祭 時局講演会	神社庁神殿
	22	土	島根県	竹島の日記念式典	島根県民会館
	25(火)~26(水)		中国地区神社庁	中国地区神社庁連絡会議	鳥取県主管
	26(水)~27(木)		神社本庁	過疎地域神社施策第二・第三期合同研究会	神社本庁
	27	木	島根県神社庁	祈年祭・神宮大麻暦頒布終了奉告祭 (祭員→隠岐地区・奏楽→出雲地区)	神社庁神殿
3	27	木	〃	支部長会	神社庁小会議室
	2(日)~4(火)		県教化委員会出雲部会	出雲部参宮(第1班)	伊勢市
	5	水	神宮	神宮大麻暦頒布終了祭	内宮神楽殿
	5	水	神社本庁	神宮大麻暦頒布春季推進会議	神宮会館
	9(日)~11(火)		県教化委員会出雲部会	出雲部参宮(第2班)	伊勢市
	13	木	神社庁長懇話会	神社庁長懇話会	明治記念館
	14	金	神社本庁	神社庁長会	神社本庁
	17	月	大社國學館	卒業式	大社國學館
	26	水	島根県神社庁	臨時協議員会	神社庁大会議室
	27	木	総代会出雲部会	総代会出雲部会総会	ビッグハート出雲
4	未定		神社本庁	「皇室」普及委員会	神社本庁
	8	火	島根県神社庁	役員会	神社庁役員室
	9	水	〃	支部長会	神社庁小会議室
	9	水	神政連県本部	臨時代議員会	神社庁大会議室
	16	水	島根県神社庁	広報委員会	神社庁小会議室
	17	木	大社國學館	入学式	大社國學館
	19(土)~20(日)		神社庁研修所	初任神職研修(後期)	神社庁研修室
	21	月	岡山県神社庁	岡山県神社関係者大会	岡山県
	22	火	島根県神社庁	事務担当者会	神社庁第二研修室
未定		全国神社総代会	総代会幹部研修会	未定	
5	14	水	出雲大社	出雲大社例大祭	出雲大社
	12(月)~16(金)		中国地区神社庁	中国地区中堅神職研修(乙)	島根県
	20	火	全国神社総代会	代議員会	神社本庁
	21	水	神社本庁	表彰式	明治記念館
	22(木)~24(土)		〃	評議員会	神社本庁
	24	土	〃	班幣式・神社庁長会	〃
6	未定		島根県神社庁(院友神職会)	在京院友神職・学生懇親会	東京
	4	水	島根県神社庁	総務委員会	神社庁役員室
	4	水	〃	教化委員会	神社庁小会議室
	7	土	中国地区氏青神青	中国地区氏青神青合同研修会	鳥取県
	9	月	神政連本部	55周年記念式典	神社本庁
	10	火	〃	中央委員会	〃
	10	火	〃	本部長・事務局長会	〃
	18	水	島根県神社庁	正副庁長会	神社庁役員室
	19	木	〃	役員会	〃

ご参考

# 初任神職研修

【主催】 島根県神社庁研修所  
【期 日】 (前期) 令和七年二月 八日(土)～ 九日(日)  
(後期) 令和七年四月十九日(土)～二十日(日)

【目的】 『島根県神社庁』島根県出雲市大社町杵築東二八六番地  
神社本庁研修規程に基づき、新たに任用された神職に  
対し、神社本庁・神社庁の組織を明確にせしめ、本庁  
包括下の神職としての自覚と連帯感を養う。  
神職任用後五年以内に修了しなければならぬ必修研  
修です。

※参考 神社本庁総合研究所研修規程施行細則 第二  
条三号

【参加資格】 階位を有し、昭和五十年七月一日以降に宮司(代務  
者)・禰宜・権禰宜・主典などに任用された者  
二十名程度

【募集人員】 二十名程度

【申込方法】 二十名程度

○履歴書  
○書籍申込書  
※申込内容は各自で把握出来るようにコピー等、控え  
ておいて下さい。

○角三封筒(B5サイズの封筒)  
※一八〇円切手を貼付し、本人の住所・氏名を記入し  
て下さい。

令和七年一月十四日(火)までに神社庁必着でお願い  
します。

申込締切

【入所許可】 入所申込者に対して書類選考を行い、入所許可を通知  
します。

【必要経費】 ※なお、入所許可の通知に併せて『研修生名簿』、『研  
修生活の葉』を送付します。  
研修費 二〇、〇〇〇円

【準 備 品】 教科書代 申し込みによる教科書代金  
研修開催までに左記の通り準備して下さい。

【装束類】 ○白衣 ○白袴 ○白足袋 ○笏(女子はボンポリ)  
○白緒草履二足(上履・下履)

○白手ぬぐい(白ハンカチ)  
※白足袋・白緒草履は神社庁で購入することも出来ます。  
各教科指定教科書(今回書籍を申込された方は、研修  
初日にお渡しいたします。)

【教科書】 諸事情により合宿は行わず通講制といたします。  
宿泊が必要な方は各自手配願います。

【研修科目】

研修科目	時限	研修科目	時限
神宮史概説	3	神社本庁憲章	3
敬神生活の綱領	3	神社本庁史(神社庁史)	5
神社実務	5	祭祀関係実技	3
伊勢の神宮と出雲大社(次代へ受け継ぐ悠久の神話と祭儀)	3		

【その他】 ・研修期間中の欠席はいかなる理由があろうとも一切  
認めません。  
・不明な点は神社庁まで連絡して下さい。

島根県神社庁  
住 所 〒六九九・〇七〇一  
島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

TEL ○八五三・五三一・二四九  
FAX ○八五三・五三一・二五八二

ご参考

# 支部祭式助教研修会

【主催】 島根県神社庁研修所

【期 日】 令和七年一月二十五日(土) 午前九時より受付

【会 場】 『島根県神社庁』島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

【目 的】 支部祭式助教の研鑽と祭式指導者養成をはかるため。

【参加資格】 支部祭式助教、その他今後祭式指導者として適任と支部長が認め推薦する者。

【募集人員】 二〇名程度予定(各支部原則一名の参加を奨励します。)

※支部二名以上の参加を希望の場合、申込締切時点での参加状況により、参加可能であればご連絡致します。(二名以上参加希望の場合は、優先順位を記入願います)

【申込方法】

【提出書類】 研修申込書

【申込締切】 令和七年一月十七日(金)までに神社庁必着でお願い致します。

【必要経費】

【研修費】 二、〇〇〇円

※別途教本代 申し込みによる教科書代金。

※同封振込用紙にて申込時に納付下さい。

【準備品】 研修会開催までに左記の通り準備して下さい。

【装束類】 ○白衣 ○白袴 ○白足袋 ○笏(女子はボンボリ)

○白縮草履一足(下履)

○白手ぬぐい(白ハンカチ)

※白足袋・白縮草履は神社庁で購入することも出来ます。

教科書

○平成二十二年改訂版 神社祭式同行事作法解説(平成二十四年改訂四版) 一、九八〇円

○平成二十年改訂版 神社祭祀関係規程(平成二十四年改訂五版) 一、一〇〇円

※改訂版以前のものは内容が大幅に変わっておりますので、必ず改訂版をご用意下さい。

【日 程】

日 程	時刻
受付・改服	9:30
開講式	10:00
祭式研修(大祭式)	12:00
昼食・休憩	13:00
祭式研修(大祭式)	15:00
休 憩	15:10
祭式研修(大祭式)	17:10
閉講式	17:30
解 散	

【その他】

感染症対策について

・研修生の皆様には受講に際し、次のご協力をお願い致します。

1、発熱等風邪の症状が見られる場合は、受講を見合わせてください。

2、受講にあたっては、感染予防策にご協力下さい。

3、研修中に窓を開放し自然換気を行う場合があります。すので、十分な寒さ対策をお願いいたします。

・ご不明点は神社庁までお問い合わせ下さい。

島根県神社庁  
電話番号 ○八五三(五三) 二二四九



出雲市里方町

高濱神社

権祢宜

安田祐紀

(昭和五十二年生)



新年明けましておめでとうございます。先ずは皇室の弥栄と神宮、県内各神社の

ご隆昌と氏子崇敬者のご多幸をお祈り申し上げます。

さて、最近何かと時間が経つのが早く感じるようになりました。私事ではありますが、ご縁あって大阪の神社よりUターンして十年が経ちます。以前から故郷出雲の神社界に微力ながらお役に立ちたいと思っていました。これもまたご縁がありまして、先輩神職のご協力のもと、出雲市内の若手神職有志により「出雲神主神楽伝承会」を立ち上げることができ、まだまだ未熟な

私ですが、現在事務局長を仰せつかっております。

そもそもこの会は、かつて出雲大社でご奉仕された湯立神事をはじめとする神主神楽を継承しようと立ち上げられました。出雲市内でこの神楽を舞うことのできる神職が年々減少しているので、このままではいつか途絶える可能性を懸念して、出雲大社の注連職であった石塚家(錦田家)の伝承に基づいて稽古することになりました。立ち上げてから八年が経ち、お陰様で会員も三十名となり、少しずつですが目的を達成するに近づいています。

「十年一昔」とよく言われますが、今や三年一昔と言っても過言ではありません。目まぐるしい時代の変遷の真っ只中、今後は何かと早い判断を迫られる時代となっていくと思います。やりたいことをやる、やらなければならぬことをやる、思い立ったら迷わずやってみることを、次世代の若者たちに我々の活動を通して少しでも伝えに行きたいと思えます。

ご縁は、神議りによると言われています。授かったご縁に感謝の気持ちをお忘れず、一層神明奉仕に努めたいと思います。結びにあたり、皆様のご健勝をお祈り申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。

益田市美都町

新宮神社

宮司

浅野隆司

(昭和四十年生)

令和七年の新春を迎え、謹んで御皇室の弥栄と県内各神社のご隆昌、並びに氏子崇敬者の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

本年は昭和百年の慶事の年でもあり、巡りあわせに感謝しております。私は昭和六十三年の本務社の祢宜を拝命して以来、神職として三十七年目を迎えました。この間、殊に益田支部及び那賀支部の多くの先輩神職の皆様のお力添え、お支えをいただいたからこそ今の私があるものと心より感謝しております。縁あって社家に生まれ、「祭」に対

する父母の姿勢を間近で見ながら生活の一部として「祭」を感じてきました。そういう私も還暦の歳となり、衰えを感じる毎日ですが、生かされていることへの感謝の気持ちを忘れずに日々過ごさせていただいております。

私の奉仕致します地域は、過疎化による人口減少により神社運営も年々厳しさを増し、今後のお宮の護持に対して不安を抱えております。しかしながら、限られた資源を大切にし、現状を前向きに捉え、仕組みを整え、氏子の皆様と知恵を出し合うことで、地域の氏神様をお守りし、お仕えることはできるものと考えています。

そのためにも私自身が健やかで前向きになれる「心」を持ち続けられる一年になるよう、心に響く温もりのある言葉を大切にし、「敬う心」「感謝する心」を忘れずに日々過ごしてまいります。

隠岐郡海士町

隠岐神社

権祢宜

村尾美海

(平成三十三年生)

故郷である隠岐郡海士町の神社に奉職してから三年目となる今年は、地域の方との繋がりを深めることに力を注ぎたいです。

島での神明奉仕の経験から、神社は地域の方々の信仰と協力のもとに成り立っていると実感しました。特に昨年はコロナ禍明けとなり、島内の多くの神社でお神輿を出す大祭りを齎行でき、本当に良い一年でした。

地域に暮らす様々な人の想いが祭りによって一つにまとまる、そんな島の風土を受け継いでいく要となる神職を目指したいです。



## 大社國學館入学案内

詳細は直接大社國學館までお問い合わせ下さい。

### 《所在地・照会先電話番号》

大社國學館

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283

電話 0853-53-2020

### 《入学試験日・内容》

- 第1次 令和7年2月20日(木)
  - 第2次 令和7年3月21日(金)
  - 第3次 令和7年4月10日(木)
- 筆記試験(国語・国史・作文)及び面接

### 《募集人員》

普通課程Ⅱ類(本科生) 15名  
同(選科生) 若干名  
予科(別科生) 若干名

### 《出願手続締切》

- 第1次 令和7年2月15日(土)
- 第2次 令和7年3月16日(日)
- 第3次 令和7年4月5日(土)

# 例祭併新嘗祭

十一月十九日神社庁神殿において例祭併新嘗祭が役員支部長及び関係者参列のもと斎行された。

祭典奉仕者

齋主 角河和幸(庁長)

副齋主 金築知宏(参事)

祭員 森 眞史(祭祀委員)

祭員 野上郁子(祭祀委員)

祭員 中田武親(神青協松江支部)

奏楽 古瀬智彦(出雲大社支部)

奏楽 本田 亘(出雲大社支部)

典儀 和田晋爾(主事)



## 表彰状感謝状伝達式

十一月十九日神社庁神殿において例祭・新嘗祭の後に神宮並神社庁顕彰表彰状感謝状伝達式が角河庁長外役員支部長総代参列のもと挙行された。



### 仕奉掃除舎庁

十一月十三日(水) 島根県神道青年協議会(会長 巨勢佳史)並びに島根県女子神職会(会長 古瀬真由美) 主催第十四回合同庁舎清掃を行いました。



### 遷座祭・式年祭紹介



令和六年 九月二十八日 大野津神社(遷座祭)

おのつじんじや

松江市大野町

宮司 清水 健

### 創立50周年記念島根県敬神婦人会総会



十一月二十六日に創立五〇周年記念島根県敬神婦人会(会長 千家礼子)総会が出雲ロイヤルホテルで開催された。角河庁長他来賓並びに会員約百名が参加した。



記念神楽上演 あい川保育園年長児演目「子ども神楽ヤマノオロチ」

記念講演 県立大社高等学校野球部監督 石飛文太先生 演題「夢は無限大」



奉納品



手水舎注連縄

教化委員会石見部会様



注連縄3本

益田市遠田町 大石信男様



誠にありがとうございました

新任神職紹介



勝部 弥生美

〔就任年月日〕令和七年一月二日  
〔趣味・特技〕バレーボール  
〔ひとこと〕神職として祖父達を助け、神明奉仕に努めてまいります。ご指導のほどよろしくお願いいたします。

〔生年月日〕平成十七年三月二十日  
〔住所〕邑智郡美郷町久保  
〔奉職神社〕王子神社 権祢宜



金築 武琉

〔就任年月日〕令和七年一月一日  
〔趣味・特技〕野球  
〔ひとこと〕初心を忘れず神社に奉仕いたします。よろしくお願いいたします。

〔生年月日〕平成十七年七月二十一日  
〔住所〕出雲市斐川町原鹿  
〔奉職神社〕原鹿神社 権祢宜

神職帰幽

雲南市掛合町	波多神社 権祢宜	勝部 正善
浜田市熱田町	熱田神社 宮司 牛尾 毅	令和六年十一月一日 享年八十七
鹿足郡吉賀町	指月神社 宮司 能美 定久	令和六年十一月三日 享年九十七
		令和七年一月一日 享年七十六

謹んで哀悼の意を表します。  
島根県神社庁長 角河 和幸

# 开社☆ガール通信

## 島根半島・潮の香りの神社巡り

今回は、日本海クルージングをメインに神社巡りをしました。心配していた天候もほどよい曇りと晴れで、サイトを海から眺めるといってもよい体験が出来ました。

### 伊奈頭美神社

(松江市美保関町北浦304番地)

→祭神：宇加之魂

まず始めに訪れたのが松江市の海



伊奈頭美神社

水浴場の中でも特に有名な北浦海水浴場の中央にある伊奈頭美神社。出雲国風土記に「稻上浜にある稻積島」と記されており、昔は島だったようです。この神社がある岬(奈倉鼻)の東側に「稻積」という集落があり、そこにある神社は『伊奈阿氣神社』というそうです。どちらも出雲国風土記に載る古社です。地名はどれも『稻積』『稻上』『奈倉(↓稲倉)』というように稲が関係しているようで一月五日に行われる神事では鳥を描いた的に当屋が射た矢が当たると豊作といわれ、田植神事もあるそうです。

### 永幸丸・築島クルージング

(松江市島根町野井)

クルージングを運航する株式会社永幸丸の船長・永見さんは静岡出身で島根に「ターン」された若き開拓者。牡蠣の養殖を中心とした漁業や観光・飲

食業と多岐にわたって活動されています。クルージング中の解説も、移住者ならではの目線で海のことを見ておられるなど目



築島クルージング



天然記念物海食崖

からうろこでした。築島東側の2つの洞門をはじめ、船からしか見られない天然記念物の海食崖などの絶景に皆大満足でした！

**明島神社(松江市美保関町惣津)**

→祭神：海津見命

惣津海岸に鎮座する小さなお社です。現在は陸続きになっている小さい島のでっぺんまで階段を登り、お参りしました。こちらのお社は遠景が美しく有名です。歴史は四十二浦や雲陽誌などに、江戸時代には書かれているものの、それ以前についてははっきりしていません。

そしてその地区は『美保関隕石』(1992年)の落下地点としても知られています。実は落下地点は社☆ガールメンバーのご実家。どうぞどうぞと部屋に上げていただきました。美保関隕石には双子(成分がほぼ一

致)とされている直方隕石があり、これは落下目撃記録上世界最古の隕石(861年)とされています。須賀神社(福岡県直方市)に奉納されています。島根半島の海沿いの神社と海からのジオパークの風景を堪能できた、潮の香りを満喫した神社巡りでした。



明島神社

**支部だより**

島前支部長

焼火神社 宮司 松浦道仁

「ハツマイリ」

二月中旬といえど空は暗く島は怒涛に囲まれて、いやが上にも寂しさをのらせる様な景色は最も日本海らしく、つまり隠岐島らしい季節でもある。普段ならなるべく早くコタツに潜り込みたい時期に焼火山の中腹では真つ昼間から飲めや歌えやの宴会が始まる。そのシーンだけを島外の人が見物すれば奇習とさえ思える行事は「ハツマイリ」と呼ばれて島前では広く親しまれているれっきとした伝統行事である。

ハツマイリ

は旧正月一日から約一ヶ月に渡って催される焼火神社への初参拜のことであり、各集落単位で朝から登山して社殿で折袴



ハツマイリの神事



岩屋に建てられている  
焼火神社

で直会終  
了となる。  
男たちが  
フラフラと  
下山支度  
をしてい  
る間に婦

を受ける。  
その後には催さ  
れる直会では今  
ではあまり見ら  
れなくなった高  
膳を用いる。島  
民にはこの直会  
がハツマイリの  
イメージとして  
定着している。  
直会の初めに神主が盃を受け、その後には  
参加者に盃が回されてから宴が催される。  
膳のメニューといえば、鯖・煮豆・神葉  
の酢味噌あえだけの素食と言えるほど質  
素なものである。膳には湯呑みが一つ添  
えてあり、それが酒を飲む猪口代わりと  
なる。酌取りがこれもまた昔ながらの一  
升徳利で酒を注いで回って、三〇分ほど  
すると歌や踊りが始まり、およそ二時間



直会風景

人方は土産の「焼火おこし」を買って贈  
り先を思いめぐらしている。

旧正月の行事である春詣祭(ハツマイ  
リ)は焼火神社にとっては特に重要な神  
事でもある。「焼火山縁起」によると大  
晦日丑三つ時(午前二時)に島前湾から  
三つの御神火が現れ、それが窟に入り、  
それを里人が社を設けて祀ったのが焼火  
神社の始まりと伝えられている。(『焼火  
山縁起』天文九年一五四〇年)

戦前には御神火を拝もうと隠岐島中か  
ら社務所に集まり年籠りと称して千人も  
の参拝者が一同に詰めかけたという。夕  
方から登山して夜中に御神火を拝んで、  
朝に下山。「大晦日の夜にお参りしなかつ  
た人々が集落単位で各々参拝したのが  
現在の春詣祭の  
形態でしよう」  
と前宮司が語つ  
ていた。

旧暦の大晦日  
の深夜には現在  
でも龍燈祭と呼  
ばれる神事が密  
かに行われてい  
る。



山に囲まれている社務所

### 編集後記

私の住む大田市温泉津町の山間地では、近  
年田畑や空き家などへの獣害が拡大している。  
その原因として専門家は、温暖化による幼獣  
の増加や過疎化が進み、鳥獣が人里近くまで  
行動範囲を広げていると指摘している。

さて当集落においての獣害は、主にイノシ  
シとホンザルの集団である。どちらも稲が  
穂を出し始める頃から出没し、稲を倒しては  
実った稲穂の部分を食べる。また当神社も三  
年前、文化財である本殿の鳳凰の墓股が、ニ  
ホンザルの集団によって損壊された。獣害は  
当神社にも及んで来ている。

現在獣害対策として、ロケット花火や爆竹  
それに電気柵など、田畑への侵入を防ぐ方法  
がある。しかしただ花火を鳴らすだけでは、  
人が追って来ない事を覚えてしまふ。集落の  
外まで追い払い、来るべき場所ではない事を  
覚え込ませる必要があるようだ。

今後当神社としては、農家の切実な思いに  
応えて、祈年祭に併せて田畑獣害除祈願も執  
り行う事にした。そして農家と連携して、新  
たな獣害対策を模索していきたい。必ず対策  
の方法はあるものと確信している。(宮)

島根県神社庁報(第三六四号)  
発行日 令和七年一月二十日  
発行者 島根県神社庁  
編集 広報委員会  
委員長 陶山 浩正 委員 鳥屋尾 浩  
副委員長 宮能 壮充 委員 江角 恵  
委員 石崎 彰矩